

# こぐれの里施設「見学・訓練状況の測定・出前講座」報告書

期日：2012年8月16日

施設訓練見学：14時～14時30分、講義および討論：14時30分～16時00分

参加者：小林、大西、佐藤、富松、関沢、堀田、栗岡、山村、榊原、魚島、遠藤、野竹 記録(堀田、栗岡)

## 1. 施設の概要

施設名称：指定介護老人福祉施設 こぐれの里

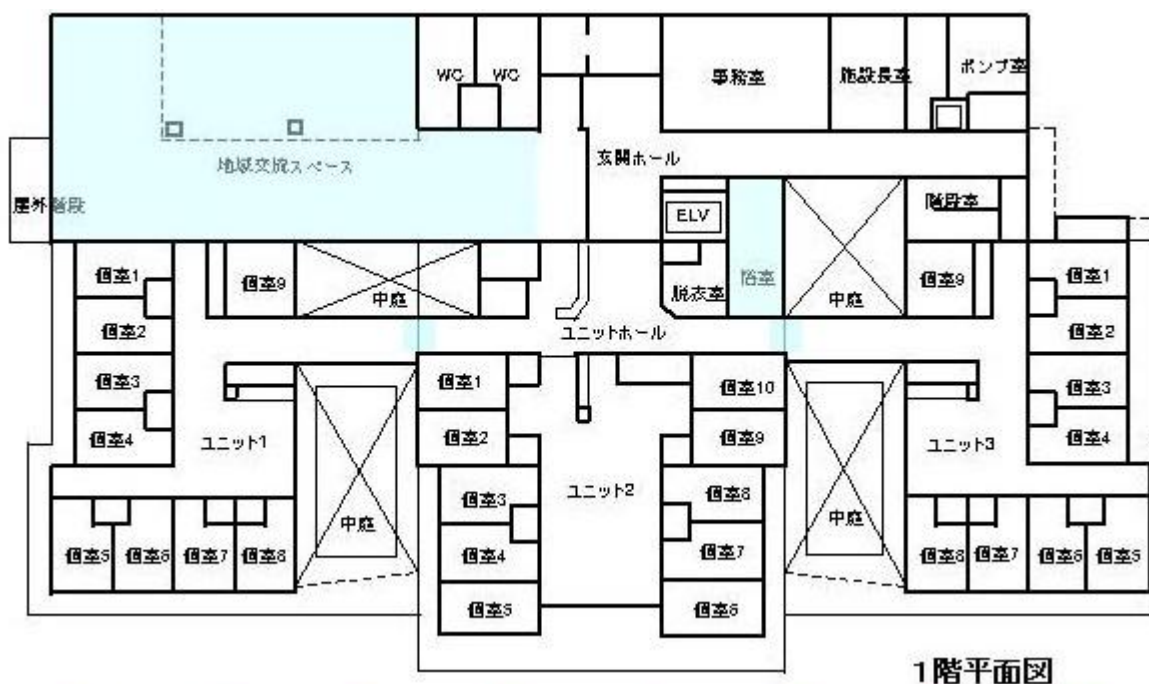
社会福祉法人 東京雄心会（東京都練馬区大泉学園町2-26-28）

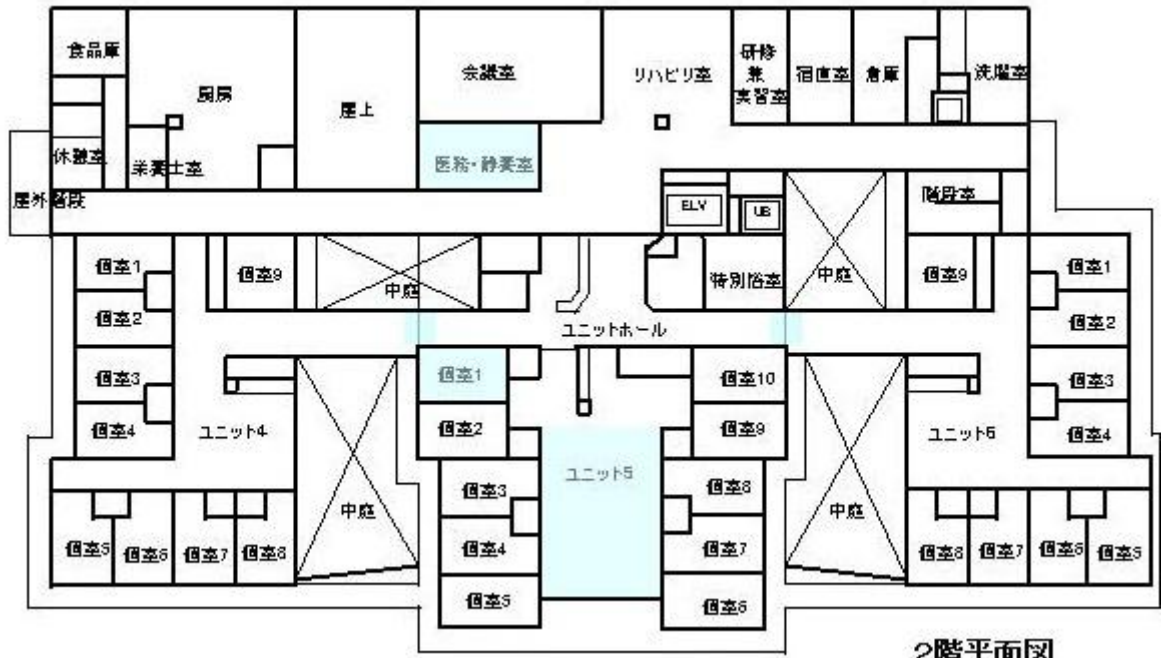
電話：03-3925-0477（対応者：細井茂事務長）

- 構造鉄筋コンクリート造3階建
- 敷地面積 3927.95m<sup>2</sup> 建築面積 1561.44 m<sup>2</sup>
- 延床面積 2895.19 m<sup>2</sup>
- 実施事業
  - 小規模生活単位型(ユニットケア)  
特別養護老人ホーム 50床
  - 小規模生活単位型短期入所生活介護 6床
  - 地域交流スペース(一般型)  
昼間職員 40人、夜間職員 5人

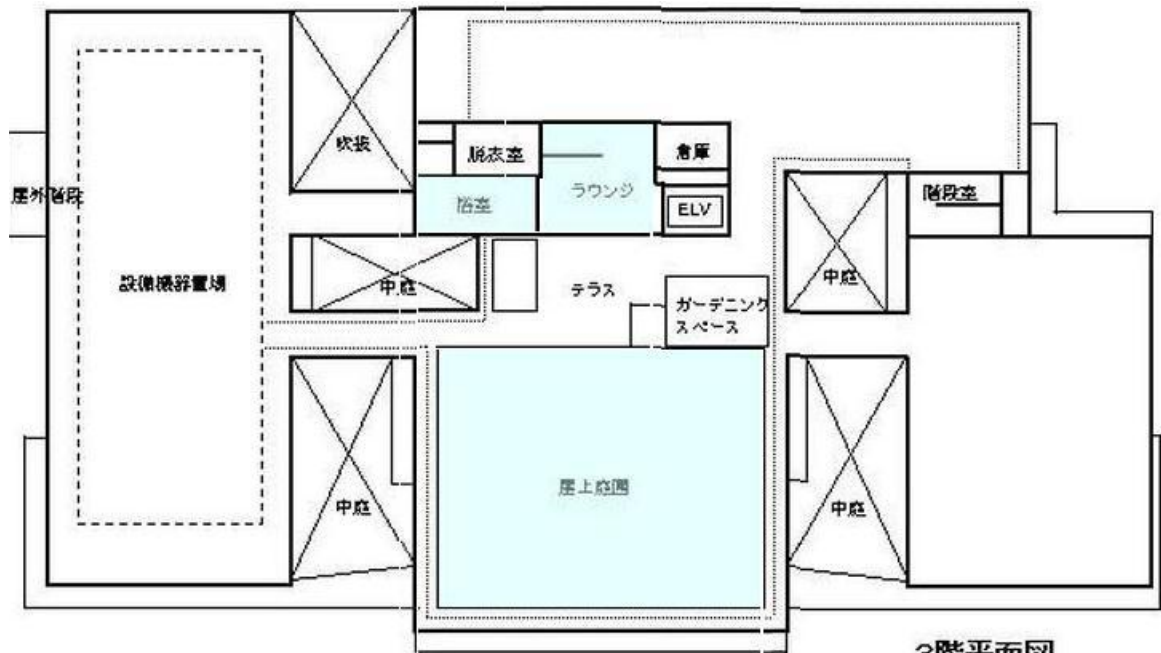


写真1 施設の外観





2階平面図



3階平面図

## 2. 現状の施設側案の訓練実施（20分：予め準備、後始末、集合含む）

- ・目的：12月実施予定の訓練と比較して出前講座の教育効果を確認する
- ・想定：夜間に2階センターユニットの共用部分で出火
- ・測定：安全な外部又は隣接ユニットへの避難所要時間計測  
避難状況、命令系統、必要の項目の実施状況の観察  
終了後個人アンケートによる不安度、情報展開状況の確認

## 3. 訓練に関する講評（10分：集合後、感想・問題点の指摘）

大西氏より

- 1) 訓練は14分で終了したが、目標値（例えば避難限界時間とか）との比較が必要である。
- 2) 煙感知器作動の防火扉が、天井部に設置されていたエアコンに打つかり、途中で止まってしまい、閉鎖しなかったところがある。改修が必要である。
- 3) 防火扉が閉鎖してしまうと、子扉を利用しなければならないが、この子扉がどちらに開くのか念頭に入れて避難する必要がある。



写真2 閉鎖障害のある防火扉

また。子扉の下端が床より立ち上がっているのでつまづかないように注意が必要である。車椅子などは担いでいかなければならない。

- 4) 初期消火の散水栓の取り出し口が廊下にあるために、ホースによって扉が閉まらなくなる。今後の煙の閉じこめに関してはシナリオを考えて再検討が必要である。



写真3 消火栓のホース

関沢氏より

- 1) 警備室が連絡役を行っていたが、訓練の段階であるが、頭が真っ白になって上手くアナウンスができなかった箇所がある。
- 2) 2階と1階の連絡方法はPHS等で行うと思うが、方法を考えておく必要がある。

佐藤氏より

- 1) 2階で火災が発生し全館に火災放送を行うシナリオだった。放送を聞いた1階の利用者は一瞬びっくりしたようだったが、介護者が落ち着いていれば、その後放送が継続されたが何も問題が発生しなかった。
- 2) 職員に確認したところ、通常時、1階と2階の職員では業務が分けられているようだ。災害時、今回のように2階で火災が発生し仮に1階職員が2階に集合したとしても、上手く活動できるのか不安な部分である。

堀田氏より

- 1) 車いすの方を介助して避難する場合と補助具を用いて自力歩行ができる方を介助して避難する場があったが、自力歩行の方の避難の方が手間取った。火災などの非常時では、たとえ自力避難が

できる場合でも、車いすに移して避難した方が時間短縮可能ではないか？

これは、利用者が訓練に参加して日常生活における判断力や体力をつけていただきたいことに加えて、火災時必ずしも全ての利用者に対応が可能とは限らないので、自力歩行ができる方は避難する訓練を行った方が良いともいえる。

2) 東京消防庁では、自火報連動で火災通報装置が起動する設備の設置を薦めている。しかしながら、これらの設備においても火災初期には感知器が作動するまで信号が送られない。夜間のようにスタッフが少ない時に火災が発生した場合、現場近くの発信機を押しボタン操作し消防署に通報可能であることは、早い火災情報の送付の意味で有効である。一方、過去に3回ほど非火災報を行い消防機関へ通報され、消防車出動に至ったことから消防機関から改善の指摘を受けている。ために、1階の受信機の場所に発信機操作での運用マニュアルが掲示されていた。公設消防では非火災報でも良いので通報してくださいとのコメントがあるが、現実の状況を見ると高齢者施設での発信機のあり方も検討の余地がある。

3) 夜間の少人数の場合、屋内消火栓の操作できる余裕はないと判断される。

4) 使用期限が過ぎた粉末式消火器は、消火後の対応を考えると交換時に徐々に強化液などに替えていくことがよい。

5) 施設事業者も認識していることであるが、利用者の部屋から各階のエレベータや階段に通じるガラス製の主な出入口の扉には電気錠が設置されているが、自火報設備連動になっていない。これも改善事項である。また、バルコニーに出る扉は電気錠が設置されていなかった。



写真4 発信機操作での運用マニュアル



写真6 主な出入口の扉



写真5 設置されている消火器

#### 4. 出前講座

- 1) 講演者：小林恭一(30分)、大西一嘉(30分)、進行役：佐藤博臣  
記録係等：堀田博文、栗岡均
- 2) 聴講者（施設側参加者）：細井事務長以下約30名
- 3) 会場：1階会議室
- 4) 講義内容
  - ①火災現象の解説と夜間避難マニュアルの説明（東京理科大学：小林）15分
  - ②目標避難時間設定と避難訓練方法の解説（東京理科大学：小林）15分
  - ③図上訓練の方法の解説と演習（神戸大学：大西）15分
  - ④東北大震災で老人ホームに何が起こったか（神戸大学：大西）15分
- 5) 質疑応答

施設長の方から

Q1：.図上訓練は以前にやっていたことがある。訓練は業務上命令的に行うことはできるのだが、自主的に職員の方から行うのはなかなか難しい。

Q2：（大西氏の講義中の質問内容に関連して）今まで遠くの人よりも近くの人を出すことしか念頭になかった。今後ご質問のように状況に応じて遠くの人を出すべきなのか考えなければならない。また情報の出し方を検討しなければならない。特に消防や施設内部での展開なども考えなければならない。また人命に関わることの意志決定はなかなか難しく、勝手にできない部分である。これらのことは事業継続計画（BCP）の中で検討したい。

#### 5. 総括

仕事を抱えている人がほとんどで、約1/3の人が3～5人単位で講義中も出入りを行う中で講義が行われた。

全体的な印象は、この施設はハード的に高レベルの安全な施設で運営を行っている印象を受けた。事務長はかなり積極的に安全を気遣っているのだが、聴講者の問題意識という点では講義中の態度は良いのであるが、質問などが少なく、気になる点ではある。

この施設の見学ならびに出前講座を行って、NPO側の知見が深まったせいか、安全な施設である事より、要求レベルが上がり、特養施設の中にグループホーム的な扱いが混在していた点である。

非常に協力的で、アンケートの実施や避難時のデータの測定は無事行われた。

以上